

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
114	政治学演習 (坪井善明)	通年	3年以上：4単位	坪井 善明 政政・経演・国演

副題
Subtitle

東南アジアの政治と社会

授業概要
Course Description

ASEAN10カ国だけでなく、インド、中国、台湾、韓国を含む東南アジア、東アジアに関心を持つ諸君の参加を求めます。三年生の前半は、これらの地域の現状を分析するための社会的な基礎文献の購読を中心にゼミは展開されます。

アンダーソン、サイド、センなどの外国人研究者の文献だけでなく、中西徹、末廣昭、白石隆などの日本人研究者の文献も涉猟します。3年秋学期からは、グループに分かれて、担当の地域や国を決めて、各地域や各国の歴史・地理・政治・経済・文化などを包括的にかつ深く勉強して、自分の卒論のテーマを探します。4年生になってからは、自分の卒論のテーマを決め、それを書くための資料収集や現地調査をもらい、卒論完成に向けて中間発表や宿舎などを行います。4年生の最後には研修旅行として、ヴェトナムに行って、ハノイ大学・ホーチミン市大学との学生との討論会を予定しています。

授業の
到達目標
Objectives

政治学を中心とした社会科学の古典・名著・刺激的な本等を「読み・書き・考える」ことを通して、更に東南アジア・東アジア一國を深く研究することを通じて、生涯にわたって「総合的な知識人」に自分を知的に鍛え上げていく方法を学びます。そして、大学を出て社会人になっても「真理の前の学び人」として一生自ら勉強に励む習慣を身につけることが出来る方法と基礎知識を習得することを目標とします。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：授業方法の紹介、自己紹介
 第2回：課題書1。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第3回：課題書2。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第4回：課題書3。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第5回：課題書4。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第6回：課題書5。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第7回：課題書6。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第8回：課題書7。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第9回：課題書8。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第10回：課題書9。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第11回：課題書10。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第12回：課題書11。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第13回：課題書12。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第14回：課題書13。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第15回：課題書14。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第16回：課題書15。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第17回：課題書16。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第18回：課題書17。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第19回：課題書18。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第20回：課題書19。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第21回：課題書20。(各自2000字にレポートを書いてきて報告)
 第22回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告1
 第23回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告2
 第24回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告3
 第25回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告4
 第26回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告5
 第27回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告6
 第28回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告7
 第29回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告8
 第30回：総括と卒論の課題

教科書
Textbook(s)

授業中に指示する。

参考文献
Reference Book(s)

坪井善明『ヴェトナム「豊かさ」への夜明け』、『ヴェトナム新時代 - 「豊かさ」への模索』（岩波新書）を事前に読了しておくこと。

評価方法
Evaluation

	割合(%) Percent(%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	20 %	
その他 Other	30 %	4年次の卒業論文、3年次は毎回のレポートと平常点の合計で評価。

備考
Note

課題書は参加学生と協議して決定する。ゼミへの出席は重視し、100%出席が原則と考えてもらいたい。

関連URL
URLs for References